

インフォメイト

Vol.05
January
2015

特集

「熱意と誇りを持って地域社会に貢献する」ために

臨床検査科のご紹介

「第15回市民公開講座」のご案内

国分寺駅バス停移設のお知らせ



(西東京市での講演の様子)

最近の厚生労働省の調査によって、わが国の全人口の約2人に1人が何らかのアレルギー疾患に罹患していることが明らかになりました。いわゆる「国民病」になってしまったアレルギー疾患が国民生活に多大な影響を及ぼしている現状から、「アレルギー疾患対策基本法」という法律が2014年6月27日に公布され、1年半以内に施行(法令が現実に効力を発し、実施される状態になる)されます。同基本法から求められている当院の役割は、「科学的知見に基づく適切なアレルギー疾患医療を提供する」、「専門的知識や技能を持つ医師、薬剤師、看護師など医療従事者の育成をする」、「学校等と連携協力体制を確保する」、「アレルギー疾患に関する啓発及び知識の普及に協力する」ことが挙げられます。

総合病院と地域の小・中学校等との顔の見える連携を目指して

「熱意と誇りを持って地域社会に貢献する」ために

小児科医長 大場 邦弘

当院小児科では、2007年5月から当院を構成する8市(小金井市、小平市、東村山市、東久留米市、清瀬市、東大和市、武蔵村山市、西東京市)に所在する病院小児科の中で、唯一の日本アレルギー学会認定教育施設(正施設)として、アレルギー専門スタッフの育成に力を注いでいます。現在は、アレルギー専門医2名と小児アレルギーエデュケーターの資格を有する専門看護師2名が中心となり、科学的知見に基づく診療ガイドラインに沿ったアレルギー疾患医療を提供しています。

2012年12月には、東京都調布市の小学校で食物アレルギーのある児童が給食後にアナフィラキシーショックにより死亡するという痛ましい事故が発生いたしました。アナフィラキシーの原因は食べ物が多いため、食物アレルギーの患者さんにとっては、小・中学校等の給食が問題になります。死亡事故を受け、学校等の現場は大変混乱しています。学校等でアナフィラキシーが発生した際、医療従事者ではない学校等の先生方が如何にその症状を認知し、必要があれば、学校等の現場で治療を開始しながら、如何に迅速に病院へ搬送できるかがポイントになります。当院小児科では、三次救急医療機関としてアナフィラキシー患者を断らず

中面につづく

地域医療連携室だより!

がん相談支援センターについて



当院は平成23年4月よりがん診療連携拠点病院に認定され、地域の医療機関と連携しながら各分野の専門家が協力して、がんの治療にあたっています。今回から、がん診療連携拠点病院としての役割をいくつかご紹介したいと思います。今回は「がん相談支援センター(以下センター)」をご紹介します。

センターでは、がん専門相談員としての研修を受けたスタッフ(看護師、社会福祉士)が、患者さんや家族あるいは地域の方々に、がんに関する情報を提供したり、がんの治療や療養生活全般の質問・相談にお応えしています。

【よくある質問・相談内容】

- ・今後の過ごし方について不安
- ・副作用とどのようにつきあうてよいかわからない
- ・医療制度について聞きたい
- ・セカンドオピニオンってなんだろう?
- ・ホスピスってなんだろう?
- ・誰かにつらい気持ちを聞いてほしい...等々

がん相談専用番号

042-466-1802

※受付時間：平日9:00～16:00
専用番号から予約ができます

●相談料は無料です。

●電話が混雑する場合がございます。ご了承ください。

●個人情報厳守いたします。



【がん相談窓口】
がん相談支援センター

ご相談はご来院またはお電話で承っております。ご来院いただく場合は事前に電話による予約をお願いいたします。

《公立昭和病院の理念と方針》

【理念】

一人ひとりの命と健康を守り、医療の質の向上に努め、熱意と誇りを持って地域社会に貢献することを目指します

【方針】

- 1 地域医療支援病院として地域連携を推進します
- 2 科学的根拠に基づいた医療を提供します
- 3 急性期病院として高度専門医療、救急医療を実践します
- 4 がん拠点病院としてがんの予防から治療までを担います
- 5 信頼される優れた医療人を育成します
- 6 健全な病院経営に努めます

当院は、東京都多摩地域の小金井市、小平市、東村山市、東久留米市、清瀬市、東大和市、武蔵村山市および西東京市の8市で構成されている昭和病院企業団により運営されています。標榜診療科は全31科。休日・夜間救急医療をはじめ、高度・専門医療、予防医学的事業、地域医療センターとして高い機能を発揮して、地域の医療需要と信頼に応えています。



公立昭和病院

〒187-8510
東京都小平市花小金井8-1-1
tel.042-461-0052
fax.042-464-7912
www.kouritu-showa.jp



● 表面のつづき

に受け入れるだけに留まらず、その一連の流れがスムーズにいくように、アレルギー専門医や小児アレルギーエデュケーターが直接学校等に伺い、啓発活動を通して学校等との連携に努めています。また、実践に即した研修として、当院小児科で行われている食物経口負荷試験を養護教諭の先生方に見学して頂き、アナフィラキシー発症時の症状の観察の仕方やその際の対応をアレルギー専門医と共に学んでいます。そして、当院小児科と医師会と教育委員会との間で問題意識を共有しながら、今後の学校での給食のあり方についても協議しています。病気の特性上、極めて短い時間で急変するため、医療従事者ではない学校等の先生方にとっては、

非常に高度な判断を迫られる場合があります。それを補完する目的で、当院小児科の医師と直接つながるアナフィラキシー対応ホットラインの運用が必須であると考えまして、小平市立の小・中学校と東京学芸大学附属小金井小学校との間では、アナフィラキシー対応ホットラインの運用を開始しております。現在、西東京市・小金井市の教育委員会とそれぞれの医師会と当院小児科とで話し合いを重ねています。

当院小児科と地域の小・中学校等の現場とが顔の見える連携を図ることで、当院にかかりつけではないアレルギー疾患を持つお子さんを含めまして、安心・安全に学校等で集団生活を送ることができるよう願っております。

臨床検査科のご紹介

臨床検査科長 大場 隆夫

皆さんは、「検査」という言葉からどのような検査を想像されますか。血液検査、CT検査、心電図検査、内視鏡検査等々たくさんある検査が思い浮かぶことと思います。病院では毎日多くの検査が行われていますが、これらは、医師はもちろん各専門資格を持った医療職が担当しています。今回は、そのなかの一つである臨床検査科について紹介させていただきます。

臨床検査科は本館の1階(心電図、呼吸機能検査など)と2階(検体検査、超音波検査など)にあり、現在38名の臨床検査技師が365日24時間体制で働いています。臨床検査は、患者さんから採取した血液、尿、便、喀痰など(これらを検体と呼ん



【微生物・細菌検査】

でいます)を色々な方法を使って分析する検体検査と、患者さんに直接測定機器を取り付けて測定する生理検査の2つに大別されます。これに検査のための採血を加えた業務が担当範囲です。検体検査と一言で言っても非常に多くの検査があり、すべてを病院の中で行うことは不可能なため、一部は外部の検査センターに依頼しています。

検体検査の代表選手は、皆さんおなじみの糖尿病やコレステロール、肝機能、腎機能などを調べる血液検査です。その他にも、安全で適切な輸血を行うための輸血検査や感染症の原因となる細菌を確定

し、それに有効な抗生剤を調べる微生物検査、内視鏡や手術で採取した組織を調べ、最終的に病気の診断をつける病理検査など多くの検査があります。一方、生理検査は心電図、脳波、呼吸機能、超音波検査など法律で16項目に規定されています。医師は、病気の診断、治療効果、予後判定のために多くの検査の中から必要十分な検査を選択し、これらの結果を総合的に判断して治療に当たります。もし、この情報が間違っていたら重大な結果を招くことになり、臨床検査技師は正しい結果をよりタイムリーに報告することに全力を注いでいます。現在、多くの検査は機械化され、コンピュータシステムの管理の下で測定されていますが、日々の機器点検や精度管理を実施し常に最善の状態を保つとともに、検体の状態や様々な物質の測定への影響等に注意を払い、前回値との比較や他の検査値との関連などを総合的にチェックして正しい結果を報告しています。

検査技術は日進月歩で進んでおり、より高度・専門化していますが、これに乗り遅れないよう、研修会や学会への参加、各種認定資格の取得など積極的に取り組んでいます。普段皆さんとお目にかかる機会は少なく、生理検査や採血の場面に限られています。最前線で病気と闘う医師、患者さんのために陰ながらサポートできるよう日々全員が努力しております。



【生理機能検査】



東村山市市制施行50周年記念 「第15回市民公開講座」のご案内

日時／平成27年2月8日(日)

場所／東村山市立中央公民館(西武新宿線東村山駅東口徒歩2分)



第14回市民公開講座の様子(ルネ小平)

内容／

「乳がんの診断と治療」

〈講師〉乳腺・内分泌外科 部長 金内 一

【講師紹介】

元東京大学講師。乳癌検診・診断・治療を担当。

積極的に乳房温存術を施行。形成外科とともに乳房再建も行っている。平成25年度は通院治療センター専任スタッフとともに、延べ650人を超える化学療法を施行。

「これからのライフスタイルと生活習慣病／糖尿病を中心に」

〈講師〉内分泌・代謝内科 部長 貴田岡 正史

【講師紹介】

日本糖尿病協会理事。東京都糖尿病医療連携協議会委員。日本糖尿病学会専門医・指導医として、糖尿病総合診療システム構築と人材育成に手腕を発揮し、高い診療レベルと充実した地域医療連携を実現。内分泌疾患では、甲状腺、副甲状腺の超音波診断とそれを応用した治療に力を入れる。

※入場無料、事前申し込み不要です。お気軽にご参加ください。

お問い合わせ先／医事課医事管理係 ☎042・461・0052(代) 内線2171
主催／公立昭和病院 後援／東村山市



国分寺駅バス停移設のお知らせ

国分寺北口から立川バスをご利用の皆様

国分寺駅北口再開業に伴い、国分寺駅北口のバス停・タクシー乗り場の場所及び駅からの道順が変更となりました。

当院へお越しの際にご利用される立川バスのバス停留所も変更となっておりますので、ご利用の際にはご注意ください。

また、工事の進捗状況によりバス停への道順につきましては、今後変更となることとが予定されておりますので、お越しの際にはホームページ等でご確認のうえ、ご利用いただけますようお願い申し上げます。

1月15日から左記のとおり変更となります。

【国分寺駅北口周辺案内図】



※詳細は、国分寺市へお問い合わせください。
お問い合わせ先／国分寺市国分寺駅周辺整備課 ☎042・323・9190